

SSKU じりつせいかつ 自立生活センター きかんし CILふちゅう機関紙

# SunSunニュース

## vol.45

2024年<sup>ねん</sup>9月<sup>がつ</sup>号<sup>ごう</sup>



都議会公明党のヒアリング



ロスからの相談者レオさん来訪

### 目次

ちょうふし <small>じゅう</small> 調布市に <small>どしょうがいしゃとうしゅうろうし</small> 重度障害者等就 <small>えんとくべつしぎょう</small> 労支援特別事業の <small>じっし</small> 実施に向けた <small>む</small> 交渉 <small>こうしやう</small> をしてきました	2
じゅう <small>どしょうがいしゃしゅうがくし</small> 重度障害者就学 <small>えんとくべつしえんせい</small> 支援特別支援制度を適用して <small>りゆう</small> いただきたい理由	3
ちょうふし <small>ようぼうしよ</small> 調布市への要望書	4
ちょうふし <small>かいどう</small> 調布市からの回答	5
ゆうせい <small>ほごほう</small> 優生保護法の <small>いけんさいばん</small> 違憲裁判に <small>かん</small> 関して	6
バリアフリー <small>しょうがいどうし</small> 障害当事者 <small>ようせいけんしゅうかいさい</small> リーダー養成研修 <small>む</small> 開催に向けて！	7
こわ <small>はなし</small> 怖い話 <small>あんど</small> & <small>へんしゅうこうき</small> 編集後記	8

# 調布市に重度障害者等就労支援特別事業の 実施に向けた交渉をしてきました

おかもと なおき  
岡本 直樹

さる、7月12日(金曜日)11:30、調布市  
社協の一室で重度障害者等就労支援特別  
事業の実施について要望しました。

当日は、調布市役所の福祉課長の石川様、  
施設係長の山田様、サービス支援係の小島  
様の3名。当会から調布市在住の岡本と三  
輪、能松の3人で要望行動を行いました。

今回、要望した重度障害者等就労支援特  
別事業は、2020年4月から実施している事  
業で、調布市での実施について正式に進め

てもらったため、任意の団体を設け、要望書を提出してきました。その後、この事業の利用を希望している三輪  
と岡本から、実施に向け各々の思いを述べさせて頂きました。

調布市からは、この事業について数年前に岡本が個人的に相談してもらってはいるものの実現には至っ  
ておらず、その後の審議についてご回答頂きました。お話の中で令和6年3月に策定された第6期調布市  
障害者総合計画に事業計画として、位置づけられているとのことで、大きく実現に近づいているなど市とし  
ての本気度を感じました。後日回答を頂けるこ  
とになっているので、結果をご報告いたします。

今後は、調布市障害者総合計画策定委員  
会の委員である地元のCILちょうふの秋元さ  
んがいらっしゃるの、中からも外からも実現に  
向け、取り組んでいきたいと思っています。良い  
ご報告をお待ちください。



## 三輪さんの声

## —重度障害者就学支援特別支援制度を適用していただきたい理由—

私は障害とともに生活するようになって以来、これまで、税金を原資とした様々な支援制度と亡き親からの金銭的な援助のもとで暮らしてきました。

しかし、10年ほど前から、なんとも形容し難い後ろめたさが湧いてきました。そのため、2017年から2019年にかけて重度訪問介護の就学支援事業を利用し、大学院に通いだし、再度社会に出る準備をしてきました。

現在私は55歳です。これまで支援をはじめ様々な恩恵を受けてきましたが、日本に住む一社会人としてあらためて支援をする側に回りたいと考えるようになりました。つまり、稼ぎ、納税し、支援をする側に立ちたい、これを切に祈っております。

今すぐ生活が困窮するわけではありません。しかし、例え障害者であっても、一人の人間としてある以上は修行を積み、自分の人格を高める努力を怠るってはいけない、たとえ失敗はあっても多くの体験を通じて厳しい内面的反省、すなわち一恥を知る一ことによる人格形成を強く意識するようになりました。

ひとり暮らしをはじめて9年目になります。単なる一人暮らしから、自立に移行するためには、自身が社会に貢献し、そこから得たお金で生活し、納税することが欠かせません。自身の稼いだお金で、生活していきたいです。ひしひしと、そう強く願っています。

今まで、私の所属するCILふちゅうのボランティア、JIL等の勉強会に参加してまいりました。すべて、様々な税金を原資とした支援、亡き親の援助、事務所のご厚意で成り立ってまいりました。あらためて考えると、すべてが尊い経験ばかりです。ありがとうございます。そして、次は制度を一就学支援制度—を活用して働き、精神的身体的自立に移行したいです。

働く先は、私が所属するCILふちゅうで、障害者やヘルパーさんたちの相談、傾聴役。またフランス語の講師や、日仏で行う料理教室の動画配信等、今までのスキルを活かし、考えていきたいと思います。

傾聴は、私の得意分野です。それは、55歳という年齢、今まで様々な経験—例えば、東京都現代美術館、豊田市美術館、個展等催してきたこと、パリで絵本を三冊出し、それを売り歩いたこと、海外生活をしてきたこと、精神病院に入院していたこと、それから施設に救われたこと、一人暮らしを始めて9年目になること、中途障害者であり、40歳で障害を持ち、それを受け入れることができたこと(老いを受け入れることができたこと)等—多岐に渡ります。年齢を重ね、ほんとうに良かったと心からおもいます。

次なるステップは、この制度の取得です。どうぞお聞き届けくださるよう、切に祈ります。

みわ やすこ  
三輪 寧子



## 調布市への要望書

2024年7月12日

調布市長 長友 貴樹様

調布市で重度障害者等就労支援特別事業を実現する会  
代表 岡本 直樹  
三輪 寧子

## 調布市での重度障害者等就労支援特別事業の実施についての要望

平素より福祉向上のご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、調布市での重度障害者等就労支援特別事業の実施の検討をお願いしたく要望致します。つきましては、7月26日(金)までに文章で回答を頂けるようお願い致します。何卒ご理解を頂き、実現へご尽力頂きますようお願い申し上げます。

早速ですが、当会の障害当事者2名およびその他にも数名が、通勤および就労中の介助を希望しております。そして当会2名については、1名は相談支援事業所の理事長で、主任相談支援専門員として東京都の相談支援従事者研修の講師等をする者、もう1名は現在就職活動中で、既に1企業に応募し、一般就労を目標とする者です。両者とも常時電動車イスや手動車イスを使用しており、移動や排泄などの身辺介助を必要としています。今後、就労を開始・継続できる環境を整えるため、正式に重度障害者等就労支援特別事業の実施をお願いしたいと思っています。

この事業は、2020年10月より創設され、令和6年3月の厚労省の最新の報告によると、全国で72自治体、183人が実施しています。特に東京都では11区が行っています。市単位では、小平市が今年度中に実施予定と聞いています。本事業の実施により、重度障害者が必要な介助を受けながら働くことで、納税し、社会に貢献することができます。また、実際の活動を通して、障害やマイノリティへの理解が深まり、誰もが暮らしやすい社会への期待が高まります。

調布市におかれましても、障害の有無やその程度・種別に関わらず、自分のもっている能力を遺憾なく発揮できる環境を整備するために、本事業の実施を改めて実現できるよう力添えをどうぞよろしくお願い致します。

## お問い合わせ先

- 調布市で重度障害者等就労支援特別事業を実現する会

〒183-0055 東京都府中市府中町2-10-11 清田第二ビル1階 CILふちゅう気付

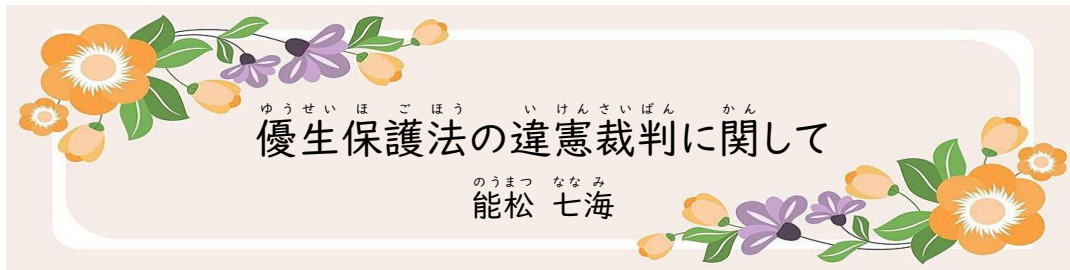
電話：042-334-7511

E-mail：[office2735@cilfuchu.com](mailto:office2735@cilfuchu.com)

担当：岡本、能松

ちょうふ し  
調布市からの回答ちょうふくししょうはつだい  
6 調福障発第1370004号  
れい わ ねん がつ にち  
令和6年8月15日ちょうふ し じゅう ど しょうがいしゃとうしゅうろう し えんとくべつ じぎょう じつげん かい  
調布市で重度障害者等就労支援特別事業を実現する会だいひょう おかもと なお き さま  
代表 岡本 直樹様  
み わ やす こ さま  
三輪 寧子様ちょうふ し ちょう なが とも よし き  
調布市長 長 友 貴 樹ちょうふ し じゅう ど しょうがいしゃとうしゅうろう し えんとくべつ じぎょう じつ し ようぼう かい  
「調布市での重度障害者等就労支援特別事業の実施についての要望」について (回  
とう  
答)へい そ ちょうふ し しょうがいふく しぎょうせい ご り かい ご きょうりよく たまわ  
平素から調布市の障害福祉行政につきまして、御理解と御協力を賜りありがとうございます。  
す。さて、この度、貴会から御要望のあった標記の件について、下記のとおり回答いたします。き  
記ごようぼう ちょうふ し しょうがいふく しぎょうせい れんけい じゅう ど しょうがいしゃとうしゅうろう し えんとくべつ じぎょう ち いきせい  
御要望いただきました「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」(地域生  
かつ し えん じぎょう しょうがいしゃ いっそうはたら しゃかい じつげん ひつよう  
活支援事業)については、障害者がより一層働ける社会の実現のために必要なものとして、こ  
れまでも実施へ向けた検討を進めてきているところです。げんざい じぎょう か いた れい わ ねん がつ さくてい ちょうふ し きほんけいかく れい  
現在までに事業化には至っておりませんが、令和5年2月に策定した「調布市基本計画」(令  
わ ねん ど れい わ ねん ど しょうがいしゃ しゅうろう し えん し さく しょうがいしゃふく し じゅうじつ  
和5年度～令和8年度)においては「障害者の就労支援」を「施策 08 障害者福祉の充実」  
における基本計画事業として位置づけ、その中で「障害の種別や重さに関わらず、よりの多くの  
しょうがいしゃ はたら し えんたいせい じゅうじつ と く めい き  
の障害者が働けるよう、支援体制の充実に取り組みます。」と明記しています。れい わ ねん がつ さくてい ちょうふ し しょうがいしゃそうごうけいかく れい わ ねん ど れい わ ねん ど  
また、令和6年3月に策定した「調布市障害者総合計画」(令和6年度～令和11年度)にお  
いても、同事業を事業計画に位置づけ、「重度障害者もより働ける社会の実現を目指し、調  
どう じぎょう じぎょうけいかく い ち じゅう ど しょうがいしゃ はたら しゃかい じつげん め ざ ちょう  
布市においても次期計画期間において事業開始を検討します。」として今後の方向性を定めて  
おります。げん じてん ぐ たいてき じぎょうかい し じ き めいげん こん ご じぎょうじつ し む  
現時点で具体的な事業開始時期を明言できるものではございませんが、今後も事業実施へ向  
と く まい かんが ご り かい ねが  
けて取り組んで参りたいと考えておりますので、御理解のほど、よろしくお願いいたします。たんとう ちょうふ し ふく し けんこう ぶ しょうがいふく し か し えんがかり こ じま  
(担当) 調布市 福祉健康部 障害福祉課 サービス支援係 小島

(tel) 042-481-7135 (fax) 042-481-4288 (mail) syougai@city.chofu.lg.jp



## 優生保護法の違憲裁判に関して

能松 七海

裁判傍聴～判決まで見守りました。国は除斥期間について訴えていましたが、除斥期間は適応されず、報道の通り勝訴となりました。

手術の被害者は少なくとも25,000人いるとされ、その中に実際には障害のない人も含まれていたと知り、大変衝撃を受けました。また、当事者を騙したり、強制的に手術を受けさせている、長い間手術について本当のことを教えてもらえなかったことも少なくありません。本当に酷いと思います。法律によって、本人、パートナーや家族などが長い間苦しんでいたことを考えると、本人や周りの人への補償(せめてもの責任)をしてほしいと思います。日弁連の方のお話では、法律自体が違憲だと認められるケースは極めて少ないとのことでした。この法律自体が、それほど酷いものだということがよくわかります。何故このような法律ができてしまったのか…。法律ができた当時は、終戦間もない頃で、みんなが必死に生きている状況で、今のような、善悪の判断が難しかったのかな…と想像します。

今私たちが、正しいと信じてやっていることも、時を経て、あれは間違っていた!となることもあるかもしれません。本当に正しい、その判断をする努力、疑問があれば飲み込まずオープンにすること、本当にこれでいいのだろうか?と疑問視してみること、声をあげ続けること、一人ではなくみんなで考えること、他の人の意見に耳を傾けること…。より良い社会をつくるために、今を生きる私たちにできることは他にもあるかもしれません。

## 旧優生保護法は「違憲」 最高裁大法廷、国に賠償命令

(日本経済新聞 2024年7月3日より抜粋引用)

旧優生保護法下で不妊手術を強制されたのは憲法違反だとして、被害者らが国に損害賠償を求めた5件の訴訟で、最高裁大法廷(裁判長・戸倉三郎長官)は3日、同法は違憲と判断し、国に賠償を命じた。不法行為から20年で賠償請求権がなくなる「除斥期間」について「著しく正義・公平の理念に反し、容認できない場合は適用されない」との初判断を示した。最高裁が法令などを違憲と判断したのは戦後13例目。「戦後最大の人権侵害」と訴えてきた被害者らの全面補償につながる司法判断となった。

岸田文雄首相は3日、「政府として真摯に反省し心から深くおわび申し上げる」と陳謝した。所管する加藤鮎子こども政策相に7月中の原告を含む当事者との面会の調整を指示し、補償のあり方について早急に結論を出すよう検討を求めた。

大法廷は判決理由で、障害を理由に正当な理由なく不妊手術を認めた同法の規定は「特定の個人に対して重大な犠牲を求めた」として、個人の尊厳を定めた憲法13条に反すると指摘。差別的な取り扱い扱いは法の下での平等を定めた憲法14条にも違反するとして、立法当時から違憲だったと初めて判断した。48年間にわたって政策として障害がある人を差別した国の責任を「極めて重大」と認定。1996年の母体保護法への改正や、一時金320万円を支給する2019年成立の救済法も対応としては不十分との見方を示し「除斥期間の主張は権利の乱用として許されない」として国の賠償責任を認めた。裁判官15人の全員一致の結論。

高裁段階で国の責任を認めた4件の訴訟について本人に最大1650万円、配偶者に220万円の賠償を命じた判決がそれぞれ確定した。原告側が敗訴していた仙台の訴訟は賠償額算定のため審理を仙台高裁に差し戻した。判決があったのは大阪、東京、札幌、神戸、仙台的各地裁で起こされた5件の訴訟。1950～70年代に手術を受けた人や配偶者ら計12人が起こした。高裁段階はいずれの判決も同法を違憲と認定したが、除斥期間の適用を巡る判断は割れ、上告審で最大の焦点となっていた。

原告側は上告審で、不妊手術は「同意すら得ずに体にメスを入れた戦後最大の人権侵害だ」と強調。「20年経過しただけで国を免責するのは著しく正義・公平の理念に反する」と訴えた。国側は除斥期間の例外を広く認めると際限なく過去にさかのぼって訴訟が起こされるようになるため「法的安定性への影響は計り知れない」とし、原告らの請求権は既に消滅していると主張した。

▼旧優生保護法 「不良な子孫の出生防止」を目的に1948年に議員立法で制定された法律。知的障害や精神疾患、遺伝性疾患などを理由に、本人の同意がなくても不妊手術を可能とした。96年に母体保護法に改正され、手術規定はなくなった。旧法下で手術を受けた人は約2万5千人に及び、このうち約1万6千人は同意がなかったとされる。平成に入ってから手術を受けた人も231人確認されており、うち4人は同意を得ていなかった。2019年4月には被害者らに一時金として一律320万円を支給する救済法が議員立法で制定された。請求期限は当初24年4月までとしていたが、29年4月まで延長された。こども家庭庁によると、支給認定を受けた人は24年5月末時点で1110人とどまる。

## バリアフリー障害当事者リーダー養成研修開催に向けて!

10月開催の研修会です。2日目のフィールドワークのコースを考案中です。

渋谷、品川等、12~13 コースほど案が出ています。ガンガンフィールドワークを  
楽しみたい人や、ゆったりめに楽しみたい人など、それぞれ多種多様に対応でき  
るよう、工夫を心掛けています。お楽しみに。

### バリアフリー当事者リーダー養成研修とは

全国各地でバリアフリー整備を推進するために、中心となって活動する障害当事者の育成を目指したものです。2007年にスタートし、年度ごとに場所を変えて全国各地で開催してきました。

東京2020オリンピック・パラリンピック大会を契機に、日本のバリアフリー施策は大きく進展しました。2018年と2020年の2度に渡ってバリアフリー法が改正され、当事者による評価や意見反映の仕組みが整えられました。鉄道はこれまでは規模に関係なくワンルードだけバリアフリールートがあれば良いという基準でしたが、規模に応じて複数ルート化、エレベーターも大型化・複数化され、単独乗降可能なホームと車両の段差と隙間の解消も目安値が設定されて事業者の取り組みが始まっています。他にも、空港アクセスバスのバリアフリー車両の導入、車いすでも乗車できるユニバーサルデザインタクシーの普及、国際基準を満たしたスタジアムの建設等非常に多くの取り組みが進められました。今後は、整備が遅れている地方のバリアフリーや、建物や店舗のバリアフリー化等、さらなる取り組みが必要です。そのため、各地でバリアフリーの取り組みを推進する障害当事者の育成が不可欠です。

今年度の養成研修は10月に都内で開催し、全国から約30人の様々な障害当事者が集まり、2泊3日で研修を行います。国立競技場ユニバーサルデザインワークショップでの当事者参加の取り組みや、鉄道事業者の最新の取り組み等もご報告頂く予定です。講義やグループワークを通じて、最新のバリアフリーの取り組み、法制度等を学び、全国各地で活動する仲間との情報交換も行い、ネットワークを構築します。

主催: DPI 日本会議

第17期バリアフリー障害当事者リーダー養成研修 in 東京実行委員会

共催: 公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団





こわ はなし

## 怖い話

み わ やす こ

三輪 寧子

先日、詐欺まがいにあい、携帯電話番号、アドレス、PCメールアドレス等、すべて変えました。

なぜ、気が付いたかという、ぼおっとLINEをうっていましたが、着信不能のところから、機械音声で、「おめでとうございます!当選されました。」という、一方的な音声で、留守番電話にメッセージが残ってあったからです。ものすごく、怖かったです。

放置しておりましたら、それに気づき、相手が勝手に電話を切りました。

すぐに、ドコモショップに予約を取り、全て変えようと思いました。警察署にも行ってきました。

最近の詐欺は、実に巧妙。

知らないところからのお電話や、非通知からのお電話は、どうぞ、しっかり避けてください。

# 編集後記

- 台風サンサンが猛威を振るいました。なんだか、愛着のある台風でしたけど、府中での被害はそれほどでは、ありませんでした。全国では、大変な被害を受けられたところもあります。復旧作業が順調に進み、一日も早く平穏が戻ることをお祈りしております。(岡)
- 充電中(木)
- 胃痙をつくることにした(前)
- 皆様早いもので今年も残すところ約ワンクールちょいです。頑張って生きまっしょい。(大)
- 残暑がまだまだ続くようです。体調には気を付けて下さい!(内)
- 健康に気を付けると、ピアカウンセリングに休まず、通う。(三)
- この時期のアイスが1番美味しい(能)

編集長：岡本 直樹

編集員：木本 淳也・前田 裕司・大高 勇樹・内田 恵理子・三輪 寧子・能松 七海

編集者：自立生活センター C I Lふちゅう

〒183-0055 東京都府中市府中町2-20-13 丸善マンション1F

TEL：042-314-2735 FAX：042-314-2736

E-Mail：office2735@cilfuchu.com

URL：http://cilfuchu.org/

発行：障害者定期刊行物協会 定価100円

